

トイレ発!
明るく元気な
学校づくり!!

— 学校トイレ改善の取組事例集 —

すぐに出たいと思う。

男子トイレの前を通るとき
鼻をつまんでいる。

すぐ詰まる。

友だちについてきてもら
わないと行きたくない。



きれいに使えなかったり、
おそうじに対する意欲が
わからない。

薄暗く、こわいから行きたくない。

汚れていると
入る気にならない。

狭くて、落ち着かない。

がまんする人が多くいる。



洋式トイレが1つもないので、
ケガした友達が困る。

清掃をしているのに
においがおさまらない。

もう汚れているから、
汚してもいいのかな
と思う。

はじめに

学校トイレが課題として取りあげられるようになって 20 年程になります。先進的な地方公共団体において学校トイレの改善の検討、改修が行われるとともに、日本トイレ協会、学校のトイレ研究会などの任意団体による様々な活動や設計者からの提案が行われてきました。

トイレについては、住宅のトイレ環境が向上し、商業施設や駅などの公共トイレの改善が進み、学校のトイレについても、近年整備された学校では魅力的な実例が見られるようになってきています。これに対して、既存学校施設については老朽化したまま改修が進んでいないものが多く、相対的に取り残された存在になりつつあります。

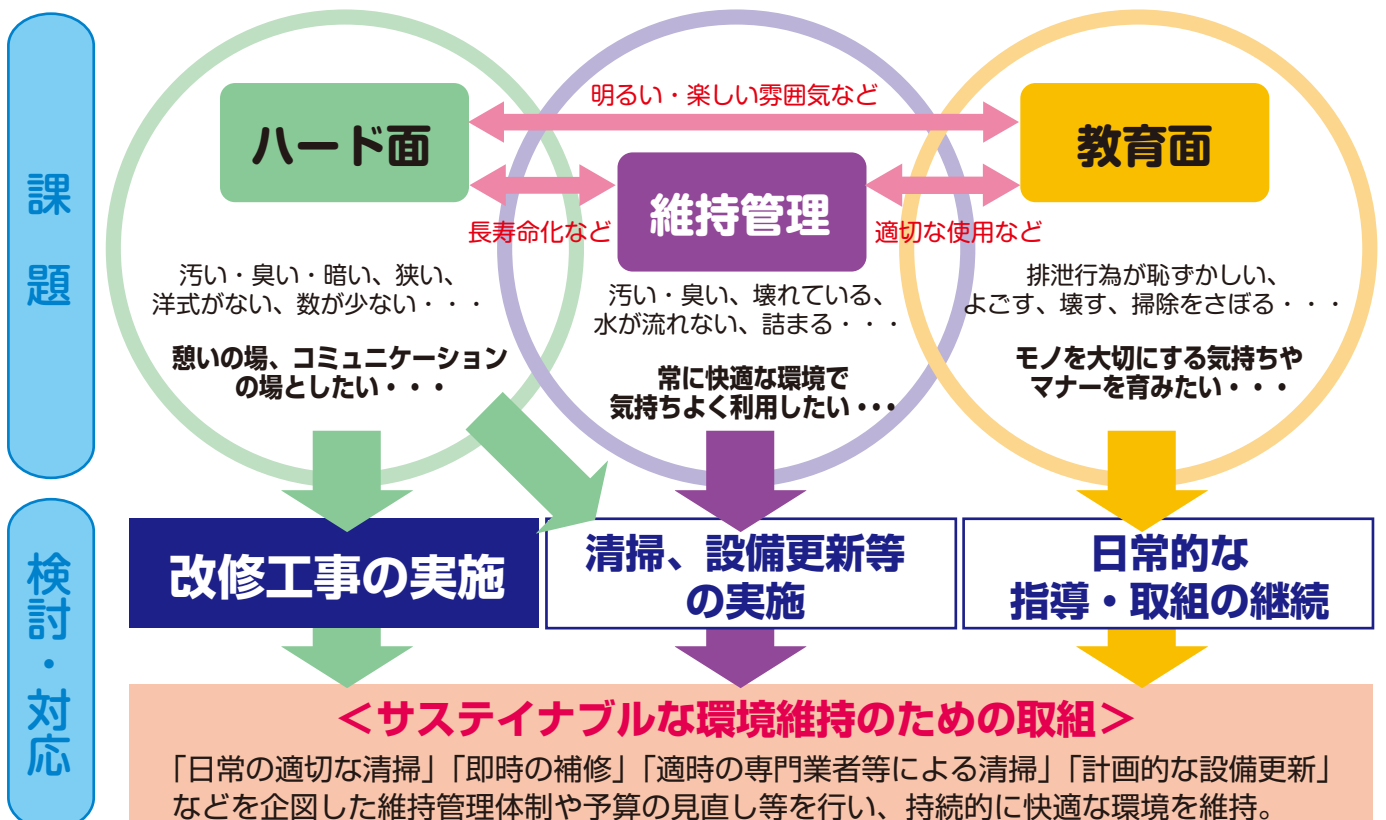
学校トイレは、「汚い・臭い・暗い」の 3K などと言われており、改修工事を要するものや、尿石除去や設備更新等の速やかな実施が必要なものがあります。また、排泄行為自体が恥ずかしいと無理に我慢する子や、からかわれるので学校ではトイレに行きたくないと考える子もおり、健康を損なうおそれが指摘されています。さらには、特に中学において、しばしば、トイレの破壊行為が問題にされることもあります。人間にとって排泄は極めて重要な営みであり、これらの課題に対応し、学校トイレが、学習の場、生活の場である学校としてふさわしい快適な環境で、長く使われ続けることが望まれます。

本事例集は、学校トイレが抱えるこれらの課題への取組について紹介するものです。トイレのみならず、学校施設全般の環境向上、機能改善に向けた取組を促すことを目的とし、施設改修に向けた設置者の事業計画・予算確保への取組などを主にとりあげています。なお、トイレを快適な状態に保つためには、適切な維持管理が特に重要であることを強調しておきます。また、本事例集で取り上げている課題のほかに、学校トイレにおいては、身体にハンディキャップを持つ方々に対応する多機能トイレの設置や、東日本大震災においても課題となった、災害時における避難所のトイレとしての機能確保なども重要な検討事項となります（※）。

主査 長澤 悟

※災害時における応急避難所としての学校施設（トイレを含む）の整備については、「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について」緊急提言（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/017/toushin/1308045.htm）を参照。

学校トイレ改善を検討する際の視点



学校トイレの機能改善・環境向上について

1. 学校施設の現状

既存の学校施設は、昭和40年代から50年代の児童生徒急増期に建築されたものが多く、その老朽化対策が重要な課題となっています。また、学習指導要領に基づく新たな教育を支え、創造性を育む豊かな教育施設が従来にも増して求められています。このことから、耐震化を最重要課題として取り組むとともに、老朽化対策を含む機能改善・向上を図ることが必要です。

一方、学校教員を対象とする「学校施設に対する満足度調査」によれば、学校施設の総合的な満足度として、約半数（47.4%）の教員が何らかの不満を感じています。その中で、最も多く不満を感じているのがトイレを含む「水まわり」で、全体の47.1%に達することがわかりました。



※「学校施設に対する満足度調査」(平成20年12月)
国立教育政策研究所文庫施設研究センター

2. 学校トイレの現状

建築後25年以上経過する公立学校施設は全体の約70%であり、これらの中に、改修が行われていないトイレが多く存在します。これらは、建設当時、一般家庭に先駆けて水洗式が導入されるなど、最先端であったと考えられます。

しかしながら、社会の成熟とともに、一般家庭の居住環境も向上し、トイレについても、温水洗浄や暖房便座が普及するなど、快適化が進んできました。また、デパートなどの商業施設や駅などの公共施設、一般企業の建物等においても、快適なトイレづくりが進められています。

学校施設については、新しく整備された学校施設では快適で豊かなトイレが見られますが、既存施設においては、他の施設に比較して遅れをとっているものも存在し、さらに、家庭のトイレの洋式化が進む中、和式中心の学校が多いというギャップも存在します。また、必ずしも適切な維持管理がなされているとは言えず、「汚い、臭い、暗い」など劣悪な環境にあるものも見られます。

3. トイレ改修における工夫・効果

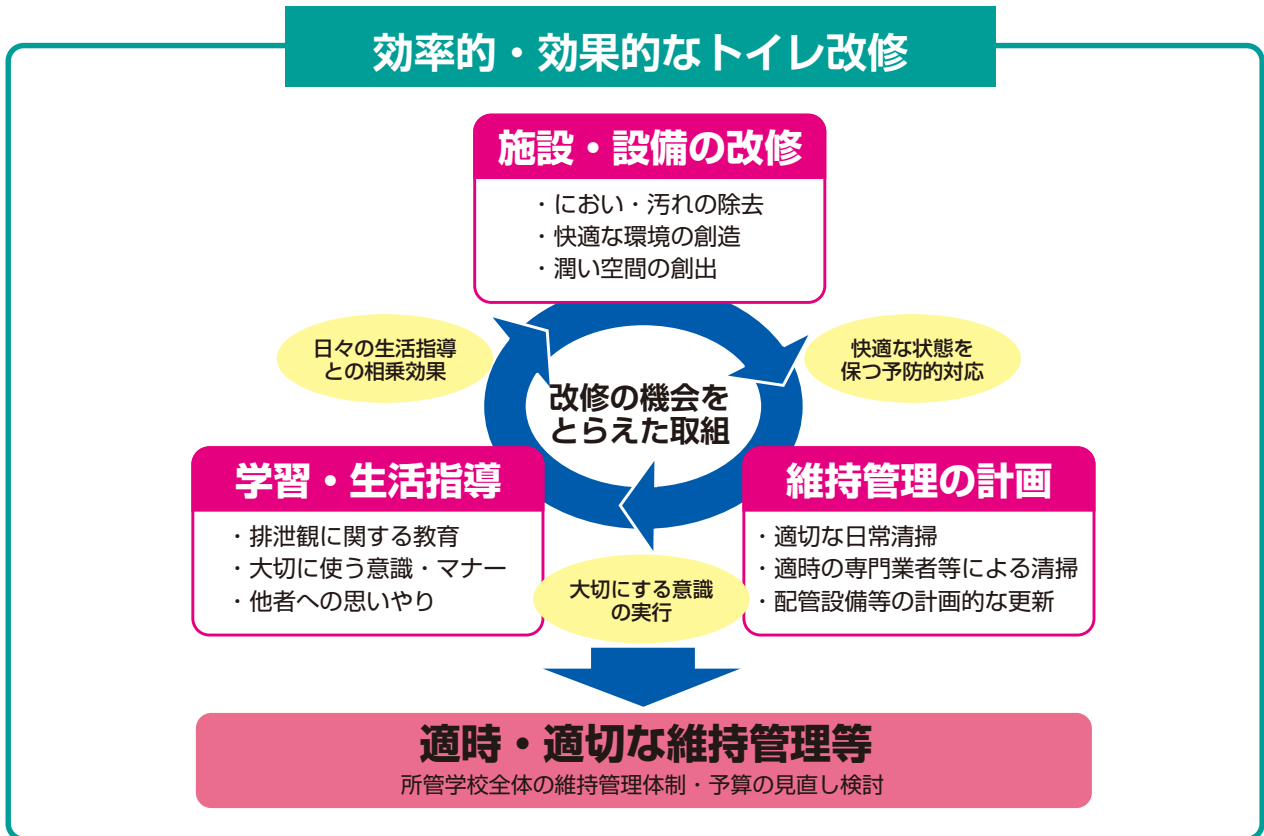
学校トイレの改修においては、単に排泄の場所として「汚い、臭い」等の問題を改善するだけでなく、**学校という教育・生活の場全体の環境向上を図る**取組がなされています。例えば、荷物置場やプライバシーの高い個室ブースを設置することなどにより、**子ども達の憩いの場・落ち着く場**とする例や、ベンチや対面式の手洗いを設置することなどにより、**子ども達の交流の場**とする例が見られます。また、「自分たちのトイレ」という意識を高めるため、計画段階で**ワークショップを開催し、子ども達の意見を反映**する例も見られます。

トイレ改修を実施した学校においては、「子ども達の間、快適になったトイレを汚さない、大切に使う」といった意識が生まれた、「子ども達が今まで以上に清掃を一生懸命行うようになった」との声も聞かれます。改修された**トイレを大切にするという意識は、学校施設全般を大切に使うという心も育てている**とも言われます。

なお、これらの効果は、必ずしもトイレ改修のみで得られるものとは言えず、継続的な生徒指導等の取組の成果と考えられます。きれいになったトイレに対する「驚き」「喜び」の気持ちを活かし、改修を契機とした指導による相乗効果が期待できます。

4. 効率的・効果的なトイレ改修に向けて

トイレ改修を行う場合、より効率的・効果的なものとするためには、**施設・設備改修の機会をとらえて、子ども達の学習の場とすることが有効**です。また、**快適な状態を保ち、長く使い続けることができるように、適切な維持管理を図る**ことが重要です。



子ども達の学習の場として、例えば、「きれいになったトイレを大切に使うこと、モノを大切にすることを学ぶ」、「次に使う人のことを考え、マナーを身につける」、「清掃の大切さを知る」、「特に小学校低学年において、食事と排泄の関係や排泄の大切さを学習し、排泄行為が恥ずかしいことではないという意識を育てる」などの機会にすることが考えられます。また、節電、節水型機器の活用とその理解を深めることや、大小便がどのように処理されるかを学ぶことなどで環境教育に取り組むことも有効です。

実際の計画にあたっては、学校と十分に相談するとともに、子ども達の声を取り入れる工夫等を行い、**適切な改修範囲、仕様の検討**が必要です。例えば、トイレブースや壁の仕様については、使用する子ども達の年齢に応じて堅牢さに配慮したり、便器の和式・洋式については、それぞれの特徴と利用者の要望に応じて比率を決定することなどが考えられます。また、将来的に改築が見込まれる場合などは、**学校全体の改修計画の中で、トイレの改修範囲などの検討をしておく**ことが重要です。

< 適時・適切な維持管理に向けて >

- 既に改修を行ったトイレ及び改修工事を要さないトイレについても、快適な環境を維持し、長く使い続けるためには、トイレを大切に使うことなどの指導と、適時・適切な維持管理が重要。
- 適時・適切な維持管理には、日常的な清掃の他、専門業者等による定期的な清掃、配管などの設備の定期的な保守が必要。
- 対症療法的対応から、予防的対応に向けて、維持管理体制や予算の見直しを図ることが大切。

トイレ性能の検討・改善を続ける計画的改修の取り組み

取組概要

- 従来から、年に2～3校のトイレ全面改修と2～3校の大規模改修の中でトイレ改修を実施。
(平成10年度時点 全96小中学校のうち、改築校5校を含め20校で改修を完了)
- 平成10年度から、学校トイレの環境改善にむけて、世田谷区小中学校トイレ改修検討委員会を設置し、今後のト
- 平成11年度、モデル小中学校を3校選定し、改修を実施するとともに、「世田谷区立学校トイレ改修マニュアル」を
- その後、庁内に、施設営繕担当部及び教育委員会事務局施設課を中心に「学校トイレ研究会」を立ち上げ、モデル標準化、省力化、迅速性、コスト縮減を旨とし、「学校トイレ工事共通仕様書」を改訂。
- 現在も、トイレの使い勝手、新しい設備の追加などをフィードバックし、仕様書の改訂を概ね2年に一度実施。
- 域内全学校のトイレの状況を把握・評価し、計画的に順次改修を実施。

性能・デザインの検討

理想型の模索

世田谷区小中学校トイレ改修検討委員会の設置

今後のトイレのあり方や方向性を討議

モデル校小中学校3校を選定

- 現状を知る－実態調査、アンケート調査、子ども会議等
- トイレの知見を広め関心を持たせる－ワークショップ、講話、設計への参加
- それらを設計コンセプトに反映し具現化（主なもの）
 - ①明るく清潔でホッとできる場
(窓を生かす。十分な換気。手洗いの充実。広がり感)
 - ②子どもの体格にあった適切なサイズ
(適正なブースの広さ。年代に応じた便器の選択)
 - ③子どもたちが選べるトイレ
(洋式和式の適正配置。多様なプラン)
 - ④掃除しやすいトイレ
(原則は乾式、汚れやすいところは湿式(水洗い可能)を導入。ふち(リム)なし和便器。シンプルなデザイン等)



「世田谷区立学校トイレ改修マニュアル」

モデル校における、要望、性能、デザイン等の具現化の過程をソフト・ハードにわたってとりまとめて配布。



標準化・迅速化

<モデル校の

- ①各校で利用することは、の増大につの省力化を
- ②工事費と要的に検討。

<例>

- ・自由度の工事の増
- ・ブース材コスト
- ・プライバシーのブースト
- ・防水の性いによる
- ・荷物置きコスト
- ・清掃性の便器の採

イレのあり方や方向性を討議。
作成。
校での実践を踏まえつつ、
(直近改訂平成22年9月)



膨大な数の要改修トイレに対し、
性能・デザイン等を一定水準に保ちつつ、
経済性、迅速性をもって実施

水準等の不断の見直しにより、
継続的、安定的に事業を実施

工事共通仕様書の改善

「世田谷区立学校トイレ改修マニュアル」の理念を踏まえつつ、標準化、省力化、迅速化、コスト縮減を図り、「学校トイレ工事共通仕様書」へ反映。

<仕様書に掲げられた主な仕様>

- トイレブース内に荷物台を設置する。
- 出入口は扉を設けず目隠し仕切りとする。
- 小便器足元に汚垂(おだれ)石(汚れやにおいの染み付きを防ぐために張る石)を設置する。
- 手洗器用水栓は、センサー付とする。
- 色彩について児童・生徒の意見を聞く機会を設けることが望ましい。
- 既存の床、壁仕上げ等は極力撤去を避ける。
- 床は乾式とする。
- トイレブース間の間仕切りは床面から天井まで施工する。
- トイレブースの扉は指挟み防止タイプとする。
- 中学校のブースは、強度のあるソリッド板とする。
- 和便器は1フロアに男女各1個以上設置する。
- 多機能トイレを1階に男女各1箇所設置し、便器は洗浄便座とする。

など

省力化
コスト縮減

特徴と課題>
者の声を反映
工事費と時間
ながるため、そ
検討。
求性能を総合

高いプランと
大
の耐久性とコ

シー確保のた
スの高さとコ

能・方法の違
コスト
台の設置とコ

よい壁掛け式
用とコスト

適時の改訂

理念を守りつつ、トイレの使い勝手の検証や新しい設備の導入により、常に快適なトイレを追求



トイレ改修目標を掲げた計画的取り組み

取組概要

【トイレ改修目標の設定】

- 葛飾区では、区全体の施策を定めた「葛飾区基本計画（平成18年度～平成27年度）」において、耐震化率100%と並びトイレ改修率100%の目標値を設定。
- 同基本計画を受けた4年間の「実施計画」において、毎年度の予算確保に努力。
- 現在、葛飾区中期実施計画－葛飾区第2次改革パワーアッププラン期間中にあり、トイレ改修率は55.2% <平成22年10月時点>

【計画実施上の特徴】

- 学校の要望に応じ、児童・生徒・教職員を交えたワークショップを開催。
- 利用者の要望を適切に設計に反映することをねらいとし、教育委員会による自主設計を実施。
- アンケートによりトイレ改修満足度を把握し、以降の整備に反映。

整備事例



▲明るいトイレを演出する展示コーナー（左、右上：四ツ木中学校、右下：清和小学校）



▲生徒とのワークショップ（新小岩中学校）



▲憩いの場となるベンチ（左：本田小学校、右：細田小学校）



▲受け部が低い（低リップ）壁掛け式小便器と汚垂（おだれ）石のある男子トイレ（清和小学校）

葛飾区基本計画 (平成18年～27年)

【教育環境】

学校施設の耐震化と大規模改修

- 耐震化率：100%＜平成20年度＞
- 大規模改修実施：34校（全74校中）＜平成27年まで＞

学校トイレの改修

- トイレ改修率：100%＜平成27年まで＞
- 改修後の児童の満足度：90%＜各年＞

葛飾区前期実施計画
葛飾区改革パワーアッププラン
平成18年度～21年度

葛飾区中期実施計画
葛飾区第2次改革パワーアッププラン
平成21年度～24年度

葛飾区後期実施計画
平成24年度～27年度（未定）

○ 「狭い・暗い」対策

- ・ 自然光を多く取り入れる大きな窓を設置
- ・ ベンチの設置－荷物置き場やおしゃべりの場所
- ・ 全身鏡の設置

○ 「臭い・汚い」対策

- ・ 和式便器や小便器周りに清掃しやすい汚垂（おだれ）石（汚れやおいの染み付きを防ぐために張る石）や汚れの落ちやすい特殊タイル（コーティングタイル）を設置
- ・ 清掃が行いやすい壁掛け式の小便器の採用
- ・ 扉をなくし、通風を確保

○ 改修後の学校の声・効果など

- ・ 男女のトイレを隔階に改修した学校では、トイレでの異学年交流が行われている。
- ・ 生徒の清掃への参加が積極的になった。
- ・ 児童会、生徒会とのワークショップを行い、自らタイル選びなどをしたことにより、トイレに愛着を持ち、大切に使用している。
- ・ 擬音装置の設置により、水の2度流しが抑制されるなど、環境意識が醸成されている。
- ・ 明るいトイレとなったことで、生活面での落ち着きが見られる。



▲大きな鏡が設置される手洗い（左：南綾瀬小学校 右：清和小学校）



▲プライバシーに配慮したトイレブース（上：清和小学校、下：東綾瀬小学校）

▲特殊タイルを敷いた清掃しやすい大便器周り（左：亀青小学校、中：東金町中学校、右：堀切中学校）